

2024年3月20日

飯田市平和祈念館を考える会

日本の秘密戦と731部隊

—その記憶を発掘し継承する意義—

明治大学文学部教授
平和教育登戸研究所資料館長
山田 朗

はじめに

[1]「秘密戦」・「731 部隊」とは。

[2]731 部隊は何のために設置され、どのようなことを行なったのか。

[3]戦後における 731 部隊免責とは。

I 日本軍の秘密戦と 731 部隊とは

1 秘密戦とは

[1] 広義の秘密戦: 化学戦(毒ガス) 生物戦(細菌・ウィルス)

非合法的な戦い(スパイ・テロ)

→ 毒ガス戦や細菌戦が広義の秘密戦に入るのは、国際法で禁止されているから

ジュネーブ議定書(1925 年) 生物化学兵器の先制使用の禁止

[2] 狭義の秘密戦: 非合法的な戦い(スパイ・テロ)

→ 狭義の秘密戦の 4 つ要素: 防諜・諜報・謀略・宣伝(戦時プロパガンダ)

2 731 部隊とは

[1]正式名称:関東軍防疫給水部(本部)通称号:

満州第 731 部隊 黒龍江省哈爾濱市平房に所在

→ 現在、その跡地に「侵華日軍第七三一部隊罪証陳列館」

(1985年開館)がある。

→【地図】

[2]役割:戦場における防疫・給水活動(表の任務)

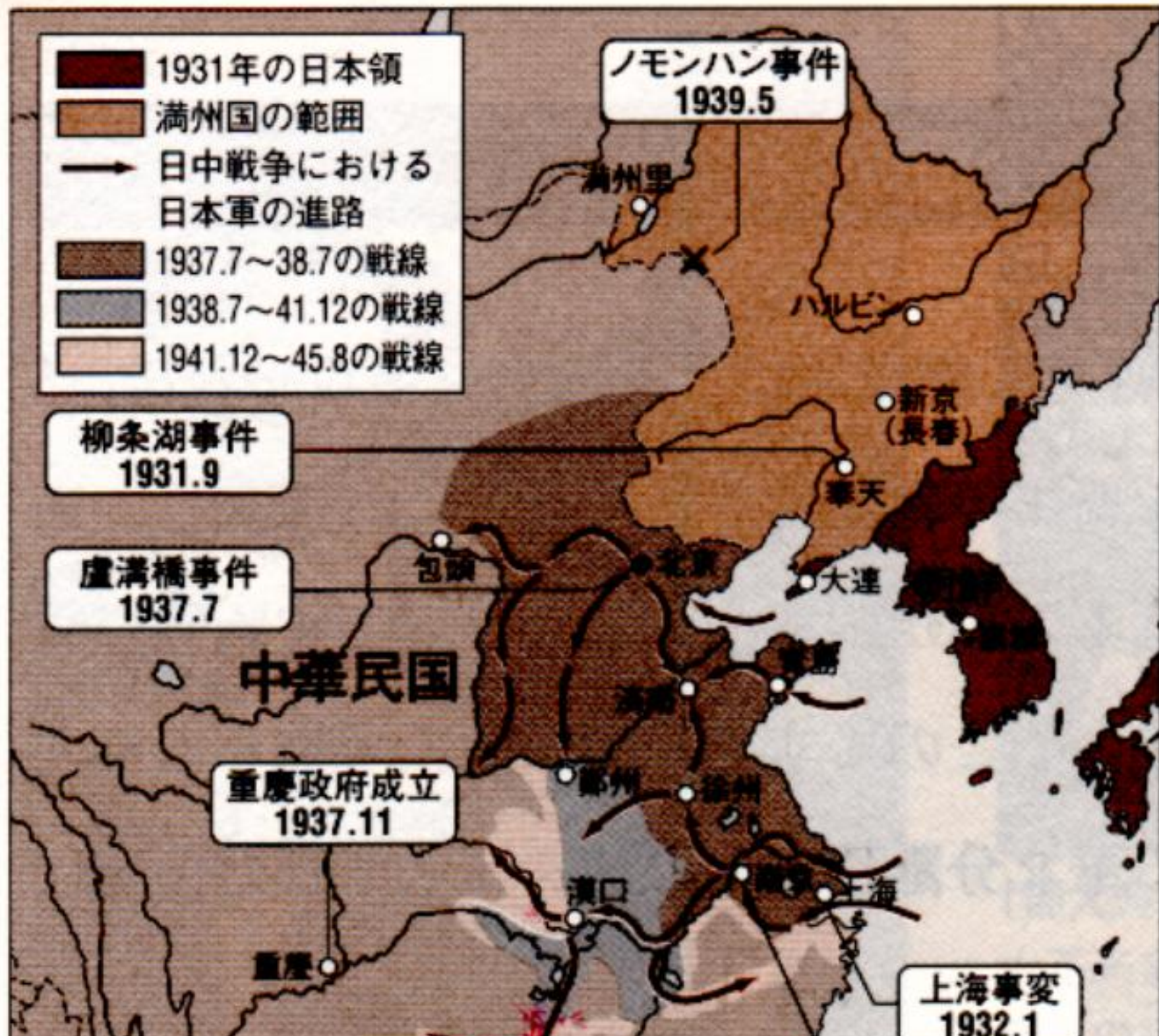
生物兵器の研究・開発・実戦での使用(裏の任務)

[3]何故、注目されるのか細菌戦の実施

人体実験の実施(実験で殺害された人は 3,000 人とも言われ、

「マルタ」と称された)

隊員の大部分は戦犯裁判にかけられず、免責され、戦後の医学・薬学界で重きをなす



2 731 部隊とは

[1]正式名称:関東軍防疫給水部(本部)通称号:

満州第 731 部隊 黒龍江省哈爾濱市平房に所在

→ 現在、その跡地に「侵華日軍第七三一部隊罪証陳列館」
(1985年開館)がある。

[2]役割:戦場における防疫・給水活動(表の任務)

生物兵器の研究・開発・実戦での使用(裏の任務)

[3]何故、注目されるのか細菌戦の実施

人体実験の実施(実験で殺害された人は 3,000 人とも言われ、
「マルタ」と称された)

隊員の大部分は戦犯裁判にかけられず、免責され、戦後の医学・
薬学界で重きをなす



98式衛生濾水機
= 石井式濾水機





石井式濾水機濾過筒

明治大学平和教育登戸研究所資料館

[4]注目されたきっかけ

森村誠一『悪魔の飽食』(光文社、1981年11月刊)

すでに常石敬一「旧日本軍の細菌兵器開発」『科学朝日』1980年10月号、
常石『消えた細菌戦部隊』海鳴社、1981年5月刊行)が発表されていた。

※実は、1948年の「帝銀事件」の際には、捜査当局は、731部隊などの旧日本軍の化学戦・生物戦・秘密戦部隊について、その全貌を把握していた。

Ⅱ 731 部隊は何のために設置され、何をしたのか

1 日本陸軍における細菌兵器の開発の始まり

[1]陸軍軍医学校防疫研究室の発足(1932年4月～8月)石井四郎三

等軍医正(当時 - 少佐に相当)が主幹

石井は、「ジュネーブ議定書」に注目、1928年4月～1930年4月に欧州出張

- 細菌戦の有効性、秘匿性、経済性を重視し、陸軍上層部に働きかける。
- 細菌兵器は自然発生と区別がつかず、毒ガスなどに比べ安上がり生産できる。

[2]在満州・東郷部隊の発足(1933 年設置、1934 年本格稼働)満州
事変(1931 年 9 月～)「満洲国」建国(1932 年 3 月) 1933 年:
ハルビン近郊背陰河に関東軍防疫班
(秘匿名 - 東郷部隊)設置 1934 年:東郷部隊が本格稼働

- 細菌戦に関して防御面は軍医学校、攻撃面(兵器開発と実戦)
は満州の部隊で進められることになる。
- 「満洲国」というブラックボックスの存在
非合法な人体実験の温床に(憲兵隊による「マルタ」の供給)
暫行懲治盗匪法・暫行懲治叛徒法の存在

2 細菌兵器の開発と機関の拡大

[1] 関東軍防疫部の設置(1936年8月) 関東

軍防疫班は、関東軍防疫部

(秘匿名 - 加茂部隊、部隊長は石井)に

1938年から1939年にかけてハルピン近郊平房に本部・実験施設を移転

ノモンハン事件(1939年)に際しては、初めて細菌戦を実施

[2] 関東軍防疫給水部の設置(1940年8月) 関東軍防疫部は、関東軍防疫給水部に

平房の本部のほか、牡丹江・ハイラル・林口・孫呉に支部(のちに大連にも)

[3]本部の秘匿部隊名(通称号)1941年8月より満州第731部隊になる

→ 731部隊は約1300名、各支部もそれぞれ200名前後の人員を擁す

731部隊と支部では、ペスト・腸チフス・コレラ・流行性出血熱、炭疽などの病原菌を兵器化

→ 陶器製爆弾(ウジ爆弾)とペスト蚤(PX)によるペスト菌の大量散布方式を実用化

【資料 1】主な細菌戦部隊一覧

部隊号	正式名称(所在地)	部長	任務
543 部隊	731 部隊海拉爾支部 (ハイラル)	加藤恒則軍医少佐	
673 部隊	731 部隊孫呉支部 (孫呉)	西俊英軍医中佐	
731 部隊	関東軍防疫給水部本部 (平房)	石井四郎軍医中将 北野政次軍医中将	細菌戦の研究、人体実験
162 部隊	731 部隊林口支部 (林口)	榊原秀夫軍医少佐	
643 部隊	731 部隊牡丹江支部 (海林)	尾上政雄軍医少佐	
100 部隊	関東軍軍馬防疫廠 (新京)	高島一雄大佐 並河才三大佐 若松有次郎少将	鼻疽などの研究 毒薬の人体実験、細菌戦準備
	731 部隊大連支部 (大連)	安東洪次技師	

出典:松村高夫・解学詩・郭洪茂・李力・江田いづみ・江田憲治『戦争と疫病— 731部隊のもたらしたもの—』(本の友社、1997 年)より作成。

[4]満州以外への機関の設置

中支那防疫給水部(南京・1644 部隊)1939 年 4 月

南支那防疫給水部(広州・8604 部隊)1939 年 4 月

北支那防疫給水部(北京・1855 部隊)1940 年 3 月

南方軍防疫給水部(シンガポール・9420 部隊)1942 年 5 月

3 中国戦線における主な細菌兵器使用(年・場所・作戦名)

[1]1939 年	ノモンハン	ノモンハン事件	ハルハ川で細菌戦の試行
[2]1940 年	寧波・衢県	浙東作戦	PX 攻撃の試行
[3]1941 年	常德	常德作戦	PX 攻撃の試行
[4]1942 年	金華	浙贛作戦	日本軍にも感染症が蔓延
[5]1942 年	広信など		PX 攻撃の試行

4 大規模な人体事件の実施

[1] 関東軍憲兵隊による人体実験材料「マルタ」の供給

→ 「満洲国」における暫行懲治盗匪法・暫行懲治叛徒法の存在

軍隊・警察指揮官は現場で「盗匪」を「叛徒」を「処置」することを認める

反満抗日勢力に対して裁判抜き現場判断での死刑の容認

731 部隊は憲兵隊から「死刑囚」の供給を受ける

[2] 様々な目的で人体実験を組織的に実施

細菌への感染実験(死亡に至る経過観察)毒ガス・毒物(効果の確認)

人造血液の開発実験

凍傷実験 など

[3] 敗戦時の施設の爆破、残っていた「マルタ」の毒殺

→ それまでの人体実験の犠牲者を合わせて 3,000 人に達すると推定される

IV 731 部隊員に対する免責措置

1 731 部隊による証拠隠滅と隊員の帰国

[1]ソ連参戦後、直ちに施設・証拠を破壊・焼却

[2]幹部・主要隊員は、いち早く日本本国に帰国

→ ごく少数がソ連軍に抑留される

2 731 部隊関係者の免責

[1]米軍機関による 731 部隊関係者への尋問

1945. 9-11 サンダース:内藤良一・増田知貞らを尋問(人体実験
については秘匿)

1946. 1-5 トンプソン:石井四郎らの尋問

1946 末 ソ連、石井四郎らの身柄引き渡しを要求

1947. 4-6 フェル:石井四郎、部隊員の戦犯免責を条件に人体実験
データ提供を申し出

1947. 10-12 ヒル:米本国に 731 部隊員の保護を求めるレポートを
提出

[2]アメリカ本国の動き

1947. 7. 15 米 3 省調整委員会極東小委員会、731 関係者免責と秘密扱いを決定

1947. 8. 1 同小委員会、生物戦データの価値は戦犯訴追より重要と勧告

[3]731 部隊員への免責の通告

ちょうど、1948 年 1 月に起きた帝銀事件の捜査中

GHQ や元日本軍軍人から捜査当局にも「旧軍の秘密」をもらさないことを条件に米軍が保護する旨が伝えられる

【資料 2】元軍医大佐早川清の証言(1948年7月26日)生体解剖に就て
帝銀事件が発生した頃は未だ進んでいなかったけれ共／最近に

至ってGHQの吉橋と云ふ二世を通じて私達の身柄を／保障して呉れ
ると米軍では申し若し米ソ戦争が開始された／際には身柄は早速米
本国へ移す事になっていると聴いている。／細菌戦術の優れた点も幾
分認めて居るらしい。〔中略〕

当時使用した薬物方法・人員等につき聴くに／

GHQで調査された際関係者同志事件については絶対口外／せぬ様
誓約したのであるから勘弁して呉れとの事で語らなかった

生体解剖の件も戦犯にならぬ事が最近判ったので申した次第で／

すと附言す(GHQでは本件に関しては秘密を厳守するがお前達の

方から墓穴を掘る様な事の／無様察 警察官の中にも共産党あり 警
官にも口外せざるとの事である 何万かの部下／を保護する為

にも)

出典:捜査一課係長・甲斐文助『帝銀事件捜査手記』別巻(再審弁護団所蔵) 255-257 頁。／は原文の改行。山田朗『帝銀事件と日本の秘密戦』新日本出版社、2020 年)279～280 頁所収

3 731 部隊関係者の潜行と復帰

[1]731 部隊当時の研究成果に基づく博士論文の提出

[2]京都大学医学部への復帰

→ 戦後医学界の重鎮となった人も

系列大学・病院への就職

[3]医薬品メーカーなどへの就職

→ 日本ブラッドバンク → ミドリ十字

おわりに:731 を生み出したもの／ 731 が生み出したもの

[1]アジアの他民族を日本の科学技術の発展のための材料に使用しても構わないという差別意識が土台にある。

[2]戦争のための研究促進には人命・人権をも顧みない人・金・人体供給のシステムが構築されて成立したものの。

[3]731 部隊の真実が隠蔽されたために、医の倫理の発展が阻害されてきた。

【参考文献】

- [1]松村高夫・解学詩・郭洪茂・李力・江田いづみ・江田憲治
『戦争と疫病— 731 部隊のもたらしたもの—』(本の友社、1997 年)
- [2]松野誠也『日本の毒ガス兵器』(凱風社、2005 年)
- [3]山田朗『帝銀事件と日本の秘密戦』(新日本出版社、2020 年)
- [4]常石敬一『731 部隊全史:石井機関と軍学官産共同体』(高文研、2022 年)
- [5]吉中丈志編『七三一部隊と大学』(京都大学学術出版会、2022年)